



## 看護師つれづれ日記⑨ 訪問看護師だからできたこと

高齢化、コロナ禍が進み、在宅医療が進んできていることは皆様ご承知の事と思います。

しかし、実際の在宅医療のイメージができない方も多いのではないのでしょうか？最近では看護学校の実習でも、病棟実習だけでなく、在宅医療、訪問看護の実習も充実されています。看護学生さんも沢山の事に気づき、学びを深めている事に嬉しく思います。

そこで、今回は訪問看護の実際と、「訪問看護師だからできた事。これがあから訪問看護が好き」についてお話をさせていただきます。

以前にもお話させていただきましたが、病院と在宅の大きな違いは「治療ではなく、生活を見る」と私は思っています。病院では患者さんは手術や治療が済んだら退院されます。看取りも、日勤夜勤その時のスタッフが看取るといった事が多くあります。やりきれない気持ちと、退院後に困った事はないのか？元気に生活できているのかな？と気になっていました。病院勤務の中で知識と技術を身につけて、経験を積んだら訪問看護をしようと思ひ研鑽を積みました。そして、飛

び込んだ訪問看護には、病院では体験できない素晴らしい看護の世界がありました。

訪問看護は先ず治療ではなく、生活を看ます。生活を整えるお手伝いや病気を持っていて、その人がその人らしく暮らせるお手伝いができます。「訪問看護」というと、「看取り」をイメージされる方も多いと思いますが、看取りだけではなくありません。病気や障がいを持っていても、地域で、在宅で暮らす事のお手伝いをします。治療優先の病院では、モニター

の音に囲まれた機械的な部屋で生活しています。でも在宅生活は違います。テレビやペット、家族に囲まれ、車いすでも好きなサークルに通ったり、酸素をしても趣味の活動ができます。病気が悪化するような事は避けませんが、療養しながらQOL（生活の質）を向上させる事を一緒に考え、実施しています。一つでも、二つでも、利用者様が大切にしていることや習慣の継続のお手伝いをして、利用者様が嬉しそうにしている姿を見ると、本当にやりがいを感じます。病気だからと諦めるずに、「出来ることは沢山ある！」と思つて頂けた時の喜びは何にも代えられません。看護師でよかった、看護ついでいいなと思える時間です。

看取りに關してもそうです。残念ながら、治療が終わり、在宅での穏やかな時

間を過ごすために看取り目的で訪問看護をご利用される方もいらっしゃいます。

終末期であることを本人に告知している場合としていない場合とありますが、ご家族と本人の意向に合わせてお手伝いさせていただきます。ご自分で「こうした」と意思表示され、そのとおりの事をして旅立たれた方もいらっしゃいます。

看取りに關しては、本人はもとより、残された家族が、後悔しないで生活しているような関わりを心掛けています。多くの不安、恐怖はあると思いますが、密に關わりますので、信頼を頂けます。

「一緒にいてもらえて安心できた」と言つていただけることが多いです。精神面でのサポートも訪問看護のメリットですね。

訪問看護や在宅医療を普段の日常を過ごすためのお手伝いと考えていただけるとういと思います。心配なこと、病院に連絡するまでもないけどどうしよう、小さなことでも気軽に相談ができるのが訪問看護です。一番身近でサポートできること、生活を大切にして、その人らしく暮らせるお手伝いをしていると、看護の幅広さを感じます。

そして、人生で大きな生活の節目に携われることに責任感と、緊張を持ち、「看護師だからできること」に喜びを感じています。